

2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月4 : /Mon.4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10121404			
科目番号 /Course Number	10160151			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	現代社会と心 : Psychological Issues in Contemporary Society			
担当教員名 / Instructor(s)	/(石田 正浩) : ISHIDA Masahiro			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	私企業であれ、公的組織であれ、良くも悪くも組織と関わらずにいられないのが現代社会の特徴である。そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域が組織心理学である。組織はその構成員から組織目標を実現するための貢献を期待するが、構成員は収入を得ること、自己実現をはかることなど様々な期待をもって組織と関わる。しかし、こうしたお互いの期待が十分に満たされることは困難であり、さまざまな問題を産みつつ、現実の組織は動いている。本講義では、組織心理学が蓄積してきたモチベーション・コミットメント・リーダーシップ・ス
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	組織心理学が蓄積してきた知見を知ることを通して、組織に生きる人間の心理学的・行動学的問題を理解し、対処を考えられるようになる。 心理学的な思考法を身につけ、身の回りの心や行動上の問題を理解する視点を獲得する。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第 1 回	ガイダンス、組織心理学とは
	英		
2	日	第 2 回	パーソナリティと職務適性
	英		
3	日	第 3 回	心理測定とその評価
	英		
4	日	第 4 回	ワークモチベーション 1 基本概念、欲求階層説
	英		
5	日	第 5 回	ワークモチベーション 2 内容理論
	英		
6	日	第 6 回	ワークモチベーション 3 過程理論
	英		
7	日	第 7 回	ワークモチベーション 4 理論と実践
	英		
8	日	第 8 回	応用行動分析
	英		
9	日	第 9 回	自己制御 1 行動的アプローチ
	英		
10	日	第 10 回	自己制御 2 認知的アプローチ
	英		
11	日	第 11 回	組織コミットメント
	英		
12	日	第 12 回	キャリア発達
	英		
13	日	第 13 回	リーダーシップの考え方 1
	英		
14	日	第 14 回	リーダーシップの考え方 2、組織ストレス 1
	英		
15	日	第 15 回	組織ストレス 2、総括
	英		

履修条件 Prerequisite(s)	
日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review	
日	毎時間、次の授業の内容を予告し、参考文献を示すと同時に、考えておくべきテーマを明示する。また、毎時間、学習内容を確認する課題を課し、重要なポイントを理解を確かなものとする。 本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	授業時に資料を配布、参考文献は適宜紹介する。
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy	
日	期末試験またはレポート 6 割、出席状況の確認を兼ねる授業中の小課題を 4 割として評価する。
英	

留意事項等 Point to consider	
日	授業内容は研究動向に応じて変化する可能性がある。 開講形態は基本的に対面授業だが、初回を含む数回はオンデマンド授業として実施する。オンデマンド授業においては、教材の学習、課題提出、自習等を含め、単位取得に必要な学修時間を確保する計画である。
英	